

## 実習成果報告会を開催しました



11月27日（木）、9期生の現職教員学生と8期生の学部新卒学生による、東紀州実習および連携校実習の成果報告会を実施しました。各実習校における児童・生徒の様子や学校の特色、実習を通して得た学び、さらに各自の学修テーマに基づく考察などについて、多様な視点から発表が行われました。当日は質疑応答も活発に交わされ、たいへん充実した報告会となりました。

本号では、学生の感想に先立ち、連携校実習において日頃より大変お世話になっております津市立橋北中学校校長の奥田幸伸先生より、長期実習を振り返ってご寄稿いただいたお言葉を紹介いたします。

### 「連携校長期実習を受けて」 津市立橋北中学校 校長 奥田 幸伸

本校と三重大学の間には、二つの連携関係があります。一つは、一身田・橋北校区地域連携校としての連携、もう一つは、教職大学院連携協力校として長期実習を受け入れる連携です。ここでは、後者の連携について、私を感じていることを述べさせていただきます。

私が橋北中学校に赴任して、まもなく三年が経過します。その間に、教職大学院から七名の学生が本校で長期実習を行いました。来年度も一名の学生を受け入れる予定です。学生の受け入れに際しては、大学側から恐縮しながら依頼をいただくことが多いのですが、若い教員が半数以上を占める本校にとって、学生とともに授業づくりを進めることは、若手教員自身の授業改善や育成に直結する貴重な機会と捉えています。

また、実習生を指導する経験は、学校内でヤングリーダーとしての役割を担う若手教員の育成にもつながっていきと考えています。まさに「Win-Win」の関係が築かれているのではないのでしょうか。

さらに、本校には、令和3年度および令和5年度に教職大学院で学んだ教員が二名在籍しています。大学院での研究が個人の学びにとどまらず、校内での実践へとつながり、教科部会をはじめとする研修活動を牽引する存在として活躍しています。こうした教員の実践や、教職大学院との信頼関係があってこそ、毎年本校での実習を勧めていただき、希望する学生が継続しているのではないかと感じています。

学生たちは、直接指導にあたる教員のみならず、同じ教科の複数の教員と協働しながら授業づくりを行い、研究を深めています。そして、研究終了後もそのつながりは続いており、大学院を離れた今でも連絡を取り合い、連携を継続しながら授業づくりに取り組んでいます。

教職大学院との連携がまさに理想的な形で展開されていると言えるでしょう。



## 参加者の声

### 8期生による感想



実習報告会に参加したことで、この1年間に自分がどのような学びを積み重ね、どのように成長してきたのかを改めて整理することができた。また、自分の発表だけでなく他の参加者の多様な実践報告を聞く中で、自分にはなかった視点や新たな課題にも気づくことができた。これらの学びを踏まえ、最終成果報告会に向けて研究内容をよりの確に伝える方法や、成果報告書で重点的に論じるべき点を再確認する良い機会となった。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野 加藤凜さん)

それぞれの研究・実践に目を通す機会は度々訪れますが、そこに至るまでの、各々が得た実習中の出会いや困難に触れることのできる機会は限られています。紙面上にはあらわれにくい、各発表者の方々が何に心を動かされたのかを共有して頂く場所として、口頭での発表は貴重なものであると感じました。様々な関心をもつ人が一堂に会することの意義について、改めてその善さに気づかされました。

(学校経営力開発コース・学習開発分野 小瀬古圭慶さん)

沢山の人の実習についての話を聞くことによって、授業実践をどのような見方、考え方で実践をしてきたのかがとてもよくわかりました。それぞれの授業実践の見方、考え方を知ることによって、私にとって新たな視点を持つことにも繋がったため、とても良い時間になりました。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野 吉見朱日佳さん)

9月に県内の特別支援学校で実習させていただきました。報告会を通じて、この実習を振り返る中で、子どもにとって本当に必要な「支援」を行うためには、もっと視野を広げて子どもたちと関わることの大切さを痛感しました。実習を通して得た学びを意識しつつ、残りの大学院生活でさらに学びを深め、来年度からの教員生活につなげていきたいと思えます。

(教育実践力開発コース・特別支援教育分野 谷口真生さん)

三重県立松阪高等学校で実習を行いました。今回、初めて高校生物の授業を担当しましたが、教職大学院で学んだ理論を実践に移す難しさを痛感しました。しかし、実際に教壇に立つことで、授業を行うやりがいや、授業づくりのプロセスを肌で感じながら実習を進めることができました。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野 笹田誠人さん)

これまで、それぞれの学生がどんなことに関心があるのか聞く機会にはたくさんありましたが、今回は実際に学校に入って授業を実践したり参与観察を行ったりした成果を教えてもらうことができとても面白かったです。自分で足を運べる学校の数には限りがありますが、このような機会があることで多くの学校の取り組みや特徴を知ることができると思いました。自分の発表に対していただいた質問からは、実習校で学んだ取り組みを他の学校でどのように応用できるか考えさせられ、最終報告につなげられるように頑張ろうと思えました。

(学校経営力開発コース・学習開発分野 野村美森さん)

### 9期生による感想

先輩方や同期の現職の方々との発表を通し、「児童・生徒の主体性」の尊重には教師の適切なリーダーシップが不可欠であること、そして実践で得られた改善点を大学院で多角的に再検討することの重要性を痛感しました。また、教科指導における発表や不登校支援に関する発表という一見異なる分野の発表から、「聴くこと」や「不安への対応策」等の共通項が見出せ、多様な専門家とともに学び合うという教職大学院ならではの魅力を再確認しました。来年度の実習では、この「学び合う関係」の中で自分も粘り強く研究に取り組み、自身の気づきを知識の構造化(実践知)へと繋げていきたいと思えます。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野 奥山達行さん)

短い時間の中で、多くの方がアンケート調査や実践を行い、さらに深い考察まで進めていることに、非常に刺激を受けました。また今回の報告会で、実習校との連携をスムーズにし、自身の研究を大きく前進させるためには、事前準備の重要性を痛感しました。今後、学修テーマを明確にするためにも、自分が「授業観察」に重点を置くのか、「授業実践」を行うのか、あるいはその両方を行うのかといった、具体的な活動内容を決定していきたいと思えます。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野 河合紀歩さん)

実習成果報告会では、先輩方・または同期現職の方々との研究分野について、実践からどのような発見があったのか、また、どのような課題が見つかり、今後どう工夫していくかについて、それぞれの考えを伺うことができました。その成果はそれぞれの学びのみに留まらず、私たちの学びともなる貴重な時間でした。その学びをモチベーションに、今後の自身の研究に活かしていきたいです。

(学校経営力開発コース 学習開発分野 高橋奎彦さん)

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院)入試・広報委員会

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 ☎ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教育学部・教育学研究科ホームページ <https://www.edu.mie-u.ac.jp/>